

ODIP 4.1 修正パッチ (P1040103004644) リリースノート

2020/11/30

(株) インテリジェント・モデル

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A. 変更内容	4
1. ファイル結合機能の拡張	4
(1) データ収集時間の内訳	4
(2) 1つの Join Group に含まれるデータセットの制限	4
2. 全角文字を含む DB オブジェクト名の囲み文字の対応	4
(1) 追加オプション	4
(2) ログファイルの出力	4
(3) 囲み文字を有効にした場合の影響	5
3. その他の修正	5
(1) ODIP アドミニストレータ・ODIP トランスフォーマの改定	5
B. バージョンアップによる影響	5
(1) 全角小文字のテーブル名・カラム名に対するアクセス	5
C. パッチの適用方法	6
1. ライブラリファイルの更新	6
2. パッチ適用後の確認	7

A. 変更内容

1. ファイル結合機能の拡張

1 つの Join Group でテーブルとファイルを結合できるように改定されました。1 つの Join Group にファイルとテーブルの両方が定義されている場合、すべてのデータは一時作業ファイルにロードされます。

(1) データ収集時間の内訳

一時作業ファイルを使用した処理の場合、テーブル/ファイルのデータを一時作業ファイルにロードする時間は、「一時作業ファイルへの読み込み時間」としてジョブログの「データ収集時間」の内訳に出力されます。一時作業ファイルから読み込む時間は、内部 DB からの SELECT 時間になるため、「データ収集時間」の内訳である「executeQuery 時間」、「next 時間」、「get 時間」に加算されます。

(2) 1 つの Join Group に含まれるデータセットの制限

1 つの Join Group にファイルを含む場合、異なるデータベースのテーブルが混在していても結合することができます。ただしファイルを含まず、異なるデータベースのテーブルのみが定義されていると、処理の実行時にエラーになります。

2. 全角文字を含む DB オブジェクト名の囲み文字の対応

データセットのテーブル名、スキーマ名、カラム名に全角文字を含む場合、全角文字を含むオブジェクト名を囲み文字で囲って SQL を実行する機能が追加されました。

(1) 追加オプション

JDBC 設定ファイル jdbcconfig.xml に、“<enclosemultibyte>Y|N</enclosemultibyte>” オプションが追加されました。このオプションに“Y”を指定すると、SQL 文、およびローダのコマンドや制御ファイル内の全角文字を含むオブジェクト名を、囲み文字で囲みます。既定値は“N”です。

囲み文字は、SQL Server では[] (角括弧)、それ以外のデータベースでは”” (ダブルクォテーション) になります。

(2) ログファイルの出力

enclosemultibyte に"Y"を指定した場合でも、ジョブログには、囲み文字適用前の SQL 文が出力されます。SQL 監査ログ (odip.ini の server.dblog.enabled を true にすると出力されます) には、囲み文字適用後の SQL 文が出力されます。

(3) 囲み文字を有効にした場合の影響

全角文字を含む名称への囲み文字を有効にすると、全角文字を含むオブジェクト名の半角英字の大文字・小文字が区別されるようになります。そのため、データセット定義と実テーブルの大文字・小文字の違いによって、テーブルやカラムが認識できず、SQL 文がエラーになる可能性があります。この場合、データセット定義の大文字・小文字を変更するか、または、データセット定義に合わせてテーブルを再作成してください。

3. その他の修正

(1) ODIP アドミニストレータ・ODIP トランスフォーマの改定

- ① データセットのカラム名に全角マイナス ("－") などの一部の全角文字を使用すると、複数ファイルの結合でエラーが発生する問題が修正されました。
- ② データソース名に、(ピリオド) を含むファイルを結合すると処理の実行時にエラーが発生する問題が修正されました。
- ③ 導出演算の「初期化処理」で、入力データの固定長 COBOL ファイルに対して Count 関数を使用すると、Count 関数の結果が NULL になる問題が修正されました。
- ④ ODIP が PostgreSQL に対して発行する SELECT 文において、テーブル名、スキーマ名、カラム名に含まれる大文字の全角アルファベットが、小文字の全角アルファベットに変換されることで、該当オブジェクトが存在しないと見做されて SQL 文がエラーになる問題が修正されました。
- ⑤ データ複写管理単位で、複写元テーブルに DECIMAL 型、NUMBER 型以外の数値型カラムが存在し、複写元と複写先が異なるデータベースのとき、処理の実行でエラーになる問題が修正され、複写元と複写先の数値型カラムは DECIMAL 型として処理されるように変更されました。

B. バージョンアップによる影響

(1) 全角小文字のテーブル名・カラム名に対するアクセス

本パッチの適用により、PostgreSQL に対する SQL で全角大文字アルファベットは自動的に小文字に変換されず、全角文字は大文字・小文字が区別されるようになります。全角小文字を使用して作成されたテーブルへのアクセスで、データセット定義と全角アルファベットの大文字・小文字の違いによるスキーマ情報の不一致が発生する可能性があります。この場合、データセット定義を修正するか、または、データセット定義に合わせてテーブルを再作成する必要があります。

C. パッチの適用方法

本パッチは、次の ODIP 製品に適用してください。

- ☐ ODIP アドミニストレータ v4.1
- ☐ ODIP オペレーションマネージャ v4.1
- ☐ ODIP リポジトリマネージャ v4.1
- ☐ ODIP プロセスマネージャ v4.1
- ☐ ODIP リポジトリサーバ v4.1
- ☐ ODIP トランスフォーマ v4.1

1. ライブラリファイルの更新

インストール DVD の ODIP_P1040103004644 フォルダには、表 1 の製品ごとのフォルダにライブラリファイルが含まれます。実行中の ODIP 製品を終了し、フォルダに含まれるすべてのファイルを、表 1 のファイルのコピー先に上書きコピーしてください。

表 1 ODIP_P1040103004644 のフォルダ構成及びファイルのコピー先

ODIP_P1040103004644		ファイルのコピー先
lib	ADM	ODIP アドミニストレータの lib フォルダ
	OPE	ODIP オペレーションマネージャの lib フォルダ
	RPM	ODIP リポジトリマネージャの lib フォルダ
	RPS	ODIP リポジトリサーバの lib フォルダ
	TFM	ODIP トランスフォーマの lib フォルダ

2. パッチ適用後の確認

パッチ適用後は、各製品を起動し、表 2 の確認方法に従って確認を行ってください。

表 2 パッチ適用後の確認方法

製品名	確認方法
ODIP アドミニストレータ	ヘルプメニューから“ODIP について”を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040103004644 であることを確認してください。
ODIP オペレーションマネージャ	
ODIP リポジトリマネージャ	
ODIP プロセスマネージャ	
ODIP リポジトリサーバ	ODIP リポジトリマネージャのツールメニューから“ORMS サーバ情報”を選択し、表示されるすべてのビルド ID が 1040103004644 であることを確認してください。
ODIP トランスフォーマ	ODIP トランスフォーマを起動し、showserver コマンドを、オプションに“-info version”を指定して実行してください。表示されるすべてのビルド ID が 1040103004644 であることを確認してください。

以 上